

2022 年度

国 語

最初に、以下の注意事項をよく読んでください。

1. 問題冊子は監督者の指示があるまでは開いてはいけません。
2. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に受験番号と氏名を記入してください。問題冊子は受験番号のみを記入してください。
3. 試験問題の内容に関する質問には答えられません。それ以外の用事があるときは手をあげてください。
4. 受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出てください。
5. 問題冊子および解答用紙は持ち帰らないでください。
6. 漢字で書くべきところは漢字で書いてください。

受 験 番 号	
------------------	--

* 解答に字数制限がある場合は、句読点なども字数として数えます。

【一】 次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 ①～⑥の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 食べ物を地下にチヨゾウする。
- ② 太陽はギンガ系の星だ。
- ③ 図書館で本をカりる。
- ④ 製品をゲンミツに検査する。
- ⑤ 飛行機をソウジユウする。
- ⑥ 北海道に祖父母の家をタブねる。

問二 次の二つの熟語が反対語の組み合わせになるように、□に入る漢字一字を答えなさい。

複雑 ↑ ↓ □ 純

【二】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

午前中の授業を受けている間に、空はいつそう寒々しくなった。風も強くなって、建て付けの悪い窓をガタガタと鳴らしていた。

「雪、降るよな、これ、絶対に降るよな」

給食のときに泰司たいじが言うと、三上みかみくんはあつさり「降っても、積もらないよ」と言った。「雪は夜中のうちに降らないと積もらないんだよなあ」

「そんなことないよ」

泰司は「A」言い返した。「積もるよ、絶対」——そうでなきゃ困るんだ、と心の中で付け加えた。

「でも、初雪はいつも積もらないんだよ、ちよつと降って、それでもう終わりだよ」

「積もるっ」

「積もらないっ」

「積もるったら、積もるんだよ」

「なに言ってるんだよ、積もったら困るだろ、サッカーできなくなるだろ」

「雪合戦しようよ」

「そんなのガキっぽくて、つまんないって。サッカーのほうが一億倍面白おもしろいだろ」

なに言ってるんだ、と泰司は《X》た。サッカーは確かに面白い。でも、サッカーは、いつでも、どこでも、誰たれとでもできる。雪合戦は、冬が寒い町で、雪の積もった日に、その町の友だちとしかできない。これからもずっと南のほうの暖かい町にばかり引越ひこしていくのなら、雪合戦は、もう一生できないかもしれないのだ。

①「積もったら、『かまくら』つくろう」

せいっぱい気を取り直して言った。「オレ、つくり方知らないから、教えてよ」と笑った。

でも、三上くんはそっけなく「オレだって知らないし、そんなのつくれないよ、どうせ」と言った。「『かまくら』ができるほど積もるわけないだろ」

「だって、去年、毎年つくってるって……」

「そんなこと言ったっけ？」

頬がカッと熱くなった。

「……嘘だったの？」

「嘘っていうか、冗談っていうか、よく覚えてないけど」

三上くんは、ハハッと軽く笑った。

その笑い声が、耳の奥——いや、胸の奥のいちばん敏感な場所に針を刺した。

「それに、タイ、今日は絶対に積もらないって。おまえ、去年引越してきたからわかんないと思うけど、オレ、知ってるもん。初雪って、毎年ぱらっと降るだけなんだから」

三上くんはそう言って、まわりの友だちにも「なあ、そうだよな？」と一人ずつ訊いていった。まっちゃん、すぎちゃん、タシカくん、いっちゃん……全員、三上くんの言葉にうなずいた。

三上くんは「そうだろ、そうだろ、そうだよなあ」と【B】うなずいて、泰司を振り向いた。

②「な？ わかっただろ？ タイも来年から覚えとかないと」

胸の奥の針が——深々と沈んだ。

泰司は「ふざけるな！」と怒鳴って、三上くんにつかみかかった。

放課後になっても、雪は降らなかった。空の様子はいつ降りだしても不思議ではないのに、風が強くなっただけで、雪は、だめだ。

③ 泰司はうつむいて帰りたくをして、友だちの誰とも話をせずに教室を出て行った。

ケンカは引き分けに終わった。二人一緒に先生に叱られた。先生に「なんでケンカになったの？」と訊かれても、泰司はなにも答えなかった。先生は「どっちが先に手を出したの？」とも訊いてきたが、三上くんも《X》で黙っていた。

仲直りはしなかった。だって悪いのはあいつなんだから——三上くんも同じように思っているはずだから、よけい自分から謝るのは嫌だった。

ランドセルがやけに重い。半ズボンからのぞく太股や膝小僧が寒い。ジャンパーの袖に手を隠して、1 校門を出たとき、後ろから呼び止められた。

「なにやっつてんだよ、待ってって言ってるだろ」

三上くんはランドセルを叩かれた。

「……そんなのオレの勝手だろ」

うつむいたまま低い声で答えると、三上くんはへへッと笑って、「さっき、つていうか……去年、ごめんな」と言った。

なんだこいつ、あっさり謝っちゃって、ばーか。

泰司は足を速めた。三上くんもついてきた。泰司は逃げる。三上くんは追いかける。逃げる。追いかける。逃げる。追いかける。追いかける。逃げる……。

頬に冷たいものが触れた。

あつ、と泰司は声にならない声をあげて立ち止まった。雪だ。風に乗って、白いものが舞い落ちていた。積もるような降り方ではない。ほんの少し雲が晴ればすぐにやんでしまいそうな、頼りなげな初雪だった。

それでも——雪だ。

三上くんも立ち止まって、空を見上げた。

「雪だなあ……」

なに言っつてんだ、そんなの見ればわかるだろ、と泰司はにらむように空を見上げる。

「これだと、意外と奇跡^{きせき}で積^{たか}もるんじゃないか？」

調子のいいことばかり言つて。

ばーか、とつぶやくと、自然と《 Y 》、まつげに雪が降り落ちた。

三上くんは泰司が笑つたので安心したように、その場でびよんびよん跳^とびはねた。口もぱくぱく開けている。

「なにしてんの？」

④「雪、食つてんの。これだったら、積もらなくても遊べるだろ」

ぱくつ、ぱくつ、と降^ふってくる雪を食べる。ほんとうに口の中に雪が入っているかどうかはわからなかったが、三上くんは、とてもおいしそうな顔をしていた。

ばーか、ばーか、雪合戦より一兆倍ガキっぽいだろ、こんなの。

心の中でつぶやきながら、泰司もやってみた。意外と難しい。だから、たまに口の中に冷たいものが入ってジュツと溶^とけると、やった、と声をあげたくなるほどうれしかった。

ばーか、ばーか、ばーか……。

心の中のつぶやきは、最後に、変わった。

「オレ……三月で転校するんだ」

三上くんは、ふうん、とうなずいただけで雪を食べつづけた。

それだけ？

泰司はちよつと拍子^{ひょうし}抜け^ぬけて、でも、がっかりしたのを悟^{さと}られたくなくて、黙^{もく}って口をぱくぱくと動かした。^⑤ずつと上を向いていたので首筋^{くびすぢ}が痛くなってきた頃、三上くんの声が、やっと聞こえた。

「なんで？」

思わず振り向くと、三上くんは空を見上げたまま、「なんで転校しちゃうの？」と重ねて訊^きいてきた。

「なんで、つて……お父さんが転勤^{てんきん}するから」

「それで一緒に行くの？」

「うん……」

ふうん、と三上くんはまたうなずいて、「いそうろうは？」と訊いた。「ドラえもんとか、オバケのQ太郎たろうみたいなもの」
あまりにも唐突とうとつな一言にどう応えていいのかわからず、泰司はちょっと困った顔で笑うだけだった。

でも、三上くんは「オレ、二段ベッドでもいいけど」と怒おこった声でつぶけた。「二段ベッドの下のほうでも、いいけど」
一瞬いっしゆん 2 した泰司だったが、あ、そうか、と三上くんの言葉の意味に気づくと、困惑こんわくした笑顔が微妙びひょうにゆがんだ。

三上くんも自分の言葉に急に「C」しまったみたいなのに、いきなり駆かけだした。空を見上げたまま。口を開けたまま。飛行機ひこうきみたいにも両手を広げて。

しばらく走ったところで立ち止まり、振り向いた。

三上くんの顔もゆがんでいた。なにか言いたげに口が動きかけた。でも、それを振り払はらうように、「走ってたほうが、雪、たくさん食える」と笑う。「ほんとほんと、今度はほんと」と念ねんを押して、また空を見上げ、口を開けて、走りだす。

⑥ 泰司も追いかけた。

さっきの三上くんを真似まねして両手を翼つばさのように広げ、口を大きく開けた。

雪が降る。雪が口に入る回数は止まっているときとたいして違ちがわないような気がしたが、不思議なほど目のまわりによく当たる。まぶたに。まつげに。目尻めじりに。目頭めがしらに。ひやつとした雪が降り落ちて、溶けて、また当たって、また溶けて。だから、目がひくひくしてしかたない。

雪が降る。頬で溶けて口に入った雪は、ほのかにしょっぱかった。

注2 時化した海の波しぶきを風が運んで、雪と混じり合ったせいだ。

たぶん。

(重松清『その年の初雪』(文藝春秋)より)

注1・いそろうろう……他人の家に世話になって、食事などのめんどうをみてもらうこと。直後の発言にあるまんが作品の「ドラえもん」・「オバケのQ太郎」は、主人公が人間の家で暮らす「いそろうろう」である。

注2・時化^{しけ}た……強い風雨で、海が荒^あれるようす。

問一

1・2

に入ることはとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じものは使えない。)

ア、きよとんと イ、ひしひしと ウ、はたと エ、とぼとぼと

問二

【A】～【C】に入ることはとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A ア、ハツとして イ、ガツタリとして

ウ、ムツとして エ、クヨクヨとして

B ア、頼^{たの}もしそうに イ、満足そうに

ウ、心細^{こま}そうに エ、申し訳なさそうに

C ア、焦^{あせ}って イ、気落ちして

ウ、照れて エ、期待して

問三 《X》・《Y》に入ることでばとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。（ただし、二か所あ

る《X》には同じものが入る。）

X ア、顎を出し イ、目を細め

ウ、額に汗し エ、口をとがらせ

Y ア、頬がゆるんで イ、頬をふくらませて

ウ、頬が落ちて エ、頬が染まって

問四 —線部①「積もったら、『かまくら』つくろう」とあるが、このように言ったときの泰司のようすとして適切なものを

次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、二度と雪で遊べないのかもしれないと思いきなつたが、冷静にふるまおうとしている。

2、三上くと遊びたいと思つているのに強い調子で言い合つてしまったため、後悔している。

3、雪合戦でなくてもいいからどうしても三上くと雪遊びがしたいので、必死になつている。

4、雪遊びをすることが自分にとってどれほど大切か、三上くと知つてほしいと思つている。

問五 —線部②「胸の奥の針が——深々と沈んだ」とあるが、これはどのようなことを表現しているか。適切なものを次の中

から一つ選び、番号で答えなさい。

1、自分の気持ち理解されないうえに軽んじられたように感じて、ひどく傷つたということ。

2、自分のかんちがいを他の友だちの前で冷やかされ、三上くんへの反感が強まったということ。

3、雪合戦をしたりかまくらをつくつたりできないとわかつて、とてもがっかりしたということ。

4、嘘をついたのに反省せずに自分のせいにしてくる三上くんに、すごく腹が立ったということ。

問六

——線部③「泰司はうつむいて降りたくをして、友だちの誰とも話をせずに教室を出て行った」とあるが、この文と同じように、泰司の晴れない気持ちが読み取れる部分を、文中からひとつづきの二文で探し、一文めの初めの五字をぬき出しなさい。

問七

——線部④「ぱくっ、ぱくっ、と降ってくる雪を食べる」とあるが、このときの三上くんのようにして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、おどけたようすを見せて、泰司のいかりがほんとうに収まったのかどうかを探ろうとしている。
- 2、泰司が笑ってくれたことに安心して、楽しそうな姿を見せて感謝の気持ちを示そうとしている。
- 3、自らも幼稚な行動を見せて、雪合戦が子どもっぽいと言ってしまったことを謝ろうとしている。
- 4、一緒に雪遊びをすることをきっかけにして、泰司と仲直りがしたい気持ちを示そうとしている。

問八

——線部⑤「がっかりした」とあるが、泰司はなぜ「がっかりした」のか。その理由を三十字以内で答えなさい。

問九

——線部⑥「泰司も追いかけた」とあるが、このときの泰司と三上くんのようにして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、泰司の転校によって会えなくなることについて、たがいに相手の気持ちをつかみかねている。
- 2、相手と会えなくなることについてたがいに言葉が見つからず、さびしい思いをこらえている。
- 3、たがいに会えなくなることが悲しくて、一緒にいられる時間を楽しもうと必死になっている。
- 4、会えなくなる前に親しい友だちになれたことがうれしく、たがいに気持ち軽くなっている。

問十

三上くんの人物像として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、細かいことはあまり気にせずおおざっぱだが、責任感の強い人物。
- 2、自分の意思を押し通そうとするが、物事を前向きにとらえる人物。
- 3、調子がよく軽々しいことを言う一面もあるが、友だち思いの人物。
- 4、意地を張りがちだが、外交的で人を統率する力をもっている人物。

【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私たちの心というのは常に安定しているわけではない。誰しもが、悲しんだり、喜んだり、怒ったり、泣いたり、さまざまな「心のゆらぎ」を抱えている。ここではまず、この「心のゆらぎ」につけ込むタイプのものを、第一種ニセ科学として分類しながら説明していこう。

この第一種ニセ科学には、占いや超能力、あるいは疑似宗教と呼ぶべきものが属する。ここでいう疑似宗教というのは、宗教のようで宗教でないもの、すなわち宗教に似せた別の代物のことだ。このジャンルは一見すると、「ニセ科学」という科学的な分類には入らないと思うかもしれない。

1、「なぜ怪しげな宗教に引つ張り込まれるか」という仕組みの部分に、実は科学的な領分が存在しているように、科学と関係があるのだ。

例えば、私たちには未来がどうなるのかわからない。わからないからこそ、不安におびえ、ゆらぎ、知る術を与えてくれるものを求めてしまう。また、自分ではどうすることもできない悲しみや苦しみがあったとき、その苦痛を払いのける方法を教えてくれるものになってしまう。占いやおみくじに頼る現象は、その典型的な例と言える。もちろん、人によっては、占いやおみくじによって迷いを吹っ切って安心を得ることで前向きになれるというケースもあるから、個人の趣味レベルにとどまっているうちは問題ない。しかし、それが個人の枠をはみ出し、すべての人間に適用できると勘違いすることで、他人の運命や人生まで左右するようになってしまうと大変危険である。

実は、冒頭に挙げた「血液型」の例もここに属する。結論から言えば、血液型は人間の性質を本質的に決めているものではない。これはさまざまな研究においてすでに明らかにされていることだ。実際、血液型で性格を気にするのは日本と韓国だけ。他の国々では【A】にもものぼらないし、そもそも人間をたった四種類に分類することなど不可能であるのは自明の理である。ちなみに一般的には知られていないが、血液型というものは細かく分類すると、最低でも五〇種類にのぼる。本当に性格を決定づけるという科学的根拠が存在するなら、五〇種類に分けて説明していかなくてはならないはずだ。

2、簡略化すれば

四種類に集約できるという側面が、占いに都合よく利用されているにすぎないのである。

こういう血液型占いをゲーム感覚で楽しんでいるうちはいい。しかし驚くべきことに、とある企業において、血液型に応じて社員を採用したり、社内のチーム編成を行うということが起きてしまった。血液型によって人を分類し排除するという、恐ろしくもバカげたことが、一部で実際に行われているのである。これは人間が持つ本来の可能性を摘み取ることにはかならない。血液型にかぎらず、名前も誕生日も生まれ年も、本人の力とは全く関係のないところで決まるものである。人生というものは、自身自身の努力や熱意によって決まるもの。

③ 外側から勝手に貼られたレッテルなどまったく気にする必要などない。自分のこれまでの生き方を内側から省みるほうがよっぽど「B」だ。

それから、いわゆる「超能力」というもの。オーラとかテレパシーといったものがその代表的な例といえる。

④、気や霊といったものを信じる人もいる。また例えば、道具も何も使わずに遠方の人と会話ができる。これらはある意味、現代科学を否定するところに端を発している。簡単に言えば、「すべてが科学で説明されているわけではないのだから、こういうことがあってもいいだろう」という主張である。つまりオーラやテレパシーの力を標榜する人々は、科学を超えた「超科学」がそこに存在すると言いたいのだ。

ところが、実はそういった超科学の主張者が述べている内容は、数々の実験や理論の積み重ねと裏打ちによってすでに説明されている範疇のものばかりであり、その主張はすべて過不足なく否定されている。彼らは心や精神の世界が物質で表せないこと注4を利用して、「未解明の科学」と称することで、現実世界から目を背けたいという人々の無意識の願望につけ入っているにすぎないのである。

そして、第一種ニセ科学の中でもとりわけ厄介なのが疑似宗教。誤解しないように言っておくが、これは宗教一般を指すものではない。ところが、中には「〇〇すれば金持ちになれるぞ」といった、物質的な利益に絡めて教義を説く怪しげなものがある。これが疑似宗教である。当然のことながら、本当の宗教というものは、物質的な利益とは無関係のものはずだ。

この疑似宗教の問題は、現世の利益・不利益を振り回したり、「たたり」といった言葉を使って脅迫や洗脳を用いることで、信奉を強要してしまう点にある。それがどれほど危険なことであるかは、君たちにも充分わかるだろう。

こうした「心のゆらぎ」につけ込むニセ科学に対抗するうえで、知っていて非常に役立つのが「平均への回帰の法則」だ。これは統計学的な現象としてきちんと認められているものだ。

人間の心も含め、この世の事象というものすべて、一定の安定した状態では進まない。上がったりがったり、山・谷・山・谷の波を繰り返しながら、平均のラインを常に上下している。例えば、学校のテストの得点というものを思い浮かべてほしい。平均の上だったり、下だったり、いつも同じ平均点を取るわけじゃない。

1 実際には、^{注5}中間試験で特別に高得点だった学生たちに注目して調べると、^{注6}一般的に期末試験では中間試験のときよりは平均点により近いという結果になる。

2 そういうさまざまな要素を含みながら、上下を繰り返して、結局は平均の数字に回帰するのだ。

3 それは、中間試験で働いたさまざまな偶然が、期末試験では必ずしも働かないからだ。

4 問題が難しいときもあれば、易しいときもあるし、身体の調子のいいときもあるし、悪いときもある。

君たちのご両親や学校の先生の中には、「褒めると成績が下がり、叱ると上がる」というシンクスを信じている人もいるかもしれないが、当然ながらこれは誤りである。褒める場合というのは、いつもの状態より上の成績を取った場合だと思われるが、平均回帰への法則に従えば、その次の成績は多かれ少なかれ以前よりも下がる場合が多い。ところが、この法則を知らないと、成績が下がったという現象を「褒める」という行為の結果だと誤解してしまうのだ。これは「叱る」場合も同じである。叱る場合というのは、いつもの状態より下の成績を取った場合なのだから、その次の成績は必ず上がることになる。

この点に留意しながら、今度は「幸運グッズ」と呼ばれるものについて考えてみよう。私たちが幸運グッズを買うタイミングというのは、「最近ラッキーだな」と感じるときよりも、何か悩み事を抱えていたり、困ったことが起きたときのほうが圧倒的に多いのではないだろうか。つまり、どちらかといえば自分自身が「幸運でない」と思う状況で、すがりたい気持ちでそれらのグッズを買う。すると、しばらくして幸運が舞い込む。それを「幸運グッズのおかげだ」と思い込んでしまう。

④ このカラクリ、今ならもう君たちにもわかるはずだ。そこで舞い込んできた幸運は、もちろん購入したグッズのおかげではな

い。単に平均への回帰の法則に従って、マイナスに偏った値からプラス方向に引き戻るといふ当たり前の現象が起きたにすぎない。つまり、不運も幸運も、平均からのズレなのである。どちらかにズレた後は、必ず平均へと戻る。その差異が、人々に「幸運」と「不運」という概念で把握されているだけなのだ。だから不運の時期の後には必ず幸運がやってくる。幸運グッズなど買わなくても、少し我慢していれば、やがて幸運がやってくるのである。

「ゆらぎ」というものがすべての人間に存在する以上、プラスの出来事もあればマイナスの出来事もある。プラスがあったときは足元をすくわれないように心を引き締め、マイナスがあったときは、やがてプラスに転じるまで頑張ればいい。良いことも悪いこともいつまでも続かないということを経験した上で、振り回されずに常に努力していれば、大きな「心のゆらぎ」につけ込まれてしまうこともない。つまり、第一種ニセ科学に騙されずに済むというわけだ。

(池内了『それは、本当に「科学」なの?』(筑摩書房)より)

注1・冒頭に挙げた…この文章よりも前の部分を指している。

注2・レットテル…人やものに対する評価。

注3・標榜する…自分の主張や立場をはっきりとかかげること。

注4・範疇…同じようなものが含まれる部類。

注5・中間試験…学期の半ばに行われるテストのこと。

注6・期末試験…中間試験よりあとに行われる、学期末のテストのこと。

注7・ジnkクス…必ず起こると思われている出来事、言い伝え。

問一

1 4

に入れることばとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じものは使えない。)

- ア、なぜなら
- イ、さらに
- ウ、だから
- エ、つまり
- オ、しかし

問二

【A】・【B】に入る二字のことばを次の漢字を組み合わせ作りなさい。

題 易 有 要 話 益 問 限

問三

……線部Ⅰ・Ⅱの本文における意味として適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

Ⅰ「端を發して」

- ア、原因があつて物事が始まつて
- イ、大きな特徴とくちようがあらわれて
- ウ、困難でやりづらい点を持つて
- エ、樂觀的な見方をして

Ⅱ「裏打ち」

- ア、物事を何度もやり直すこと
- イ、結論や結末にたどり着くこと
- ウ、考えや主張を否定すること
- エ、物事を別の面から確実にすること

問四

……線部X「れ」と同じ用法のものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、私は店まで迷わずに行かれた。
- イ、朝礼で校長先生が話された。
- ウ、リレーで友達に追いつかれた。
- エ、去年のことが思い出された。

問五

~~~~線部Y「全く」がかかる部分の中から一つ選び、記号で答えなさい。  
全くとくア関係のないところウエオカ  
~~~~で決まるものである。

問六

~~~~線部Z「留意」と熟語の成り立ちが同じものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。  
ア、乗馬 イ、国営 ウ、清流 エ、救助

問七

本文には次の一文がぬけている。どこに入れたらよいか、この直前になる十字をぬき出しなさい。

本来の宗教というものは、心の悩みを受けとめ、いかに健全に生きるべきかということ<sup>な</sup>を教えてくれるものだ。

問八

……線で囲まれた部分の1〜4を正しい順序に並べかえ、番号で答えなさい。

問九

——線部①「疑似宗教」とあるが、これは一般的な宗教とどのような点が異なるのか。「〜点。」に続くように文中から十五字で探し、ぬき出しなさい。

問十

——線部②『血液型』の例」とあるが、これはどういうことか。それを説明した次の文の1・2に入る適切なことばをそれぞれ指定された字数で文中からぬき出しなさい。

自分の未来や、自分の手に負えない苦痛の対処法について

1 三字

を得たいときに頼ってしまいがちだが、

2 四字

をこえると危険が生じてしまうことの例。

問十一 — 線部③「いわゆる『超能力』というもの」とあるが、人に「超能力」を信じ込ませる仕組みを説明している一文を文中から探し、初めの五字をぬき出しなさい。

問十二 — 線部④「このカラクリ」とあるが、どのようなことか。文中のことをばを用いて六十字以内で答えなさい。

問十三 本文の内容と合っているものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、私たちの持つ「心のゆらぎ」につけ込まれないようにするためには、科学的でないものは一切受け入れられないという姿勢を保つことが大切だ。
- 2、私たちの幸運や不運は安定しない自分の心によるものだとして理解して、第一種二七科学に振り回されないように強い意志を持つことが大切だ。
- 3、私たちの安定しない心が第一種二七科学につけ込まれないために、私たちは目の前の幸運や不運に振り回されずに努力をすることが大切だ。
- 4、私たちの人生には良いことも悪いことも起きる可能性があるが、常に努力することによってできる限り悪いことをさけていくことが大切だ。

|      |
|------|
| 受験番号 |
|      |
| 氏名   |
|      |

|    |
|----|
| 得点 |
|    |

|         |   |   |
|---------|---|---|
| 問二<br>純 | ⑤ | ① |
|         | ⑥ | ② |
|         |   | ③ |
|         |   | ④ |
|         |   |   |
|         |   |   |

|         |         |         |        |        |        |        |        |        |        |   |   |  |  |  |  |  |  |
|---------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---|---|--|--|--|--|--|--|
| 問一<br>1 | 問二<br>A | 問三<br>X | 問四<br> | 問五<br> | 問六<br> | 問七<br> | 問八<br> | 問九<br> | 問十<br> |   |   |  |  |  |  |  |  |
|         |         |         |        |        |        |        |        |        |        | 2 | B |  |  |  |  |  |  |
|         |         |         |        |        |        |        |        |        |        |   | C |  |  |  |  |  |  |
|         |         |         |        |        |        |        |        |        |        |   |   |  |  |  |  |  |  |
|         |         |         |        |        |        |        |        |        |        |   |   |  |  |  |  |  |  |
|         |         |         |        |        |        |        |        |        |        |   |   |  |  |  |  |  |  |

|         |         |         |        |        |        |        |        |        |         |         |         |         |   |   |  |  |  |  |  |  |
|---------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---|---|--|--|--|--|--|--|
| 問一<br>1 | 問二<br>A | 問三<br>I | 問四<br> | 問五<br> | 問六<br> | 問七<br> | 問八<br> | 問九<br> | 問十<br>2 | 問十一<br> | 問十二<br> | 問十三<br> |   |   |  |  |  |  |  |  |
|         |         |         |        |        |        |        |        |        |         |         |         |         | 2 | B |  |  |  |  |  |  |
|         |         |         |        |        |        |        |        |        |         |         |         |         |   |   |  |  |  |  |  |  |
|         |         |         |        |        |        |        |        |        |         |         |         |         |   |   |  |  |  |  |  |  |
|         |         |         |        |        |        |        |        |        |         |         |         |         |   |   |  |  |  |  |  |  |
|         |         |         |        |        |        |        |        |        |         |         |         |         |   |   |  |  |  |  |  |  |

問八  
↓  
↓  
↓

点。